

意外に身近な高次脳機能障害

熊本リハビリテーション病院リハビリテーション部神経心理科長

尾関 誠 (おぜき まこと)

高次脳機能障害のリハビリテーションと心理士

私は、リハビリテーションを担う回復期の病院に心理士として勤め、高次脳機能障害のリハビリテーションを中心に業務を行っております。2001年から実施された厚生労働省の「高次脳機能障害モデル事業」以後、高次脳機能障害のリハビリテーションに心理士の介入が囑望されながらも、医療報酬の厚い壁に阻まれて、心理士はあまり介入できていない現状があります。高次脳機能障害とは、主に脳の器質的損傷が原因で生じた認知機能の障害や行動障害などを指し、数分前のことも覚えていられない、感情や欲求のコントロールが難しくなったりするなどのさまざまな障害の総称です。目に見えない障害とも言われており、周囲の人や家族でさえその障害に気づきにくい性質があります。さらに、この障害を持つ人が増加してきていることもあって、近年注目されるようになってきました。交通事故・心停止・感染等の原因疾患・事故の発生頻度と多様性を考えると、他人事ではありません。

私の勤務先は、熊本県における高次脳機能障害拠点病院の一つとして対応の充実に努めており、ここでの心理士の役割は、入院・外来患者に対して、神経心理学的検査を中心とする心理検査を行い、高次脳機能障害や障害に起因する心理的な問題を詳細に把握するこ

とです。さらに、認知リハビリテーション、カウンセリング、心理的支援、家族支援、復学・復職・就労支援などを行い、高次脳機能障害患者の改善・安定だけでなく、家族の精神的安定も含めて対応します。たとえば記憶障害の患者に対して、体系的にメモをとる習慣化を促したり、障害への認識を高めたりするための訓練や面接を行い、日常生活や社会生活に適應できるように支援しています。そしてリハビリテーションの実施は心理士一人では成り立たず、連携が不可欠です。ここでは心理士を中心に、高次脳機能障害班を編成し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と協力して高次脳機能障害のリハビリテーションの技術向上、治療環境の改善に取り組んでおります。

高次脳機能障害と心理学

高次脳機能障害のリハビリテーションは学問領域としては臨床神経心理学ですが、その実施にあたっては心理学全般の知識や素養が重要です。基本的な面接技法や神経心理学による障害の臨床像の理解や把握はもちろんですが、たとえば、認知心理学の認知モデル、

Profile — 尾関 誠

1994年、千葉大学文学部行動科学科卒業。同大学大学院自然科学研究科博士後期課程単位取得退学。熊本県高次脳機能障害検討委員会委員、リハビリテーション心理職会運営委員。



広々としたリハビリテーションセンター

認知行動療法、応用行動分析を用いたりリハビリテーション、幼児や児童への対応には発達心理学も必要になります。

前述のように見過ごされているケースもある現状で、高次脳機能障害の方が一般病院や教育・福祉施設などのリハビリテーション以外の領域で支援を求めることも少なくありません。心理士には、支援を求めてきた方の行動や心理的な問題が、心因性か器質性か、先天性か後天性か、性格か症状かといった鑑別と、評価に基づいた支援が求められます。そのため、あらゆる領域の心理士に、臨床神経心理学の基礎的な知識が必要と思われます。

臨床神経心理学は、わが国ではまだ発展途上にあります。今後この領域に従事する心理士が増え、充実し、活用されていくことが望まれます。